



例題 1

リンゴが30個あります。A君のほうがB君より6個多くなるように2人でわけました。  
A君とB君のリンゴはそれぞれ何個ですか。

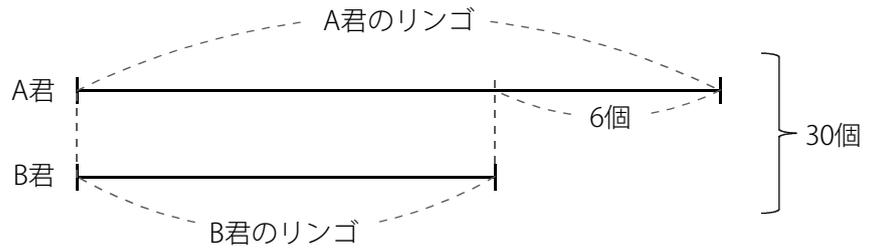
答え A 18個, B 12個

[例題 1 の解説]

図で2人の持っているリンゴの個数を表してみましょう。

右図のような図を「<sup>せんぶんず</sup>線分図」といいます。

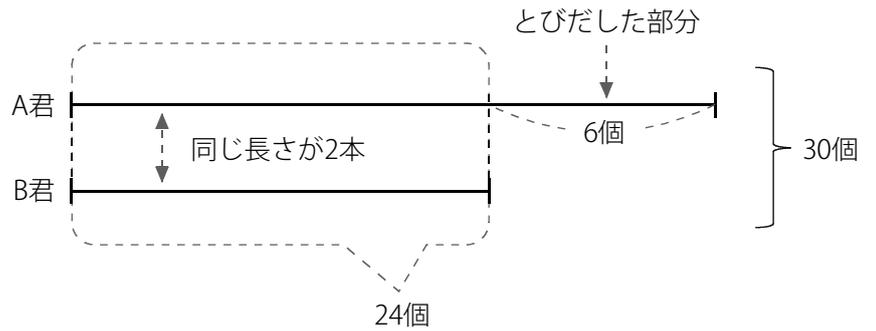
A君のほうが6個多いので長い線で表しています。



右図のようにとびだした部分は6個です。

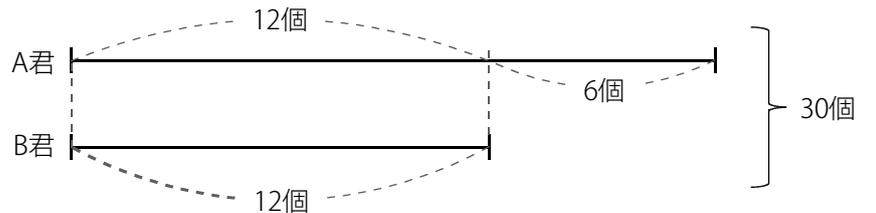
$$30 - 6 = 24$$

線分図で同じ長さが2本で24個です。



$$24 \div 2 = 12$$

より  
1本分が12個であることがわかります。



よって

$$\text{A君のリンゴは } 12 + 6 = 18 \text{ 個}$$

B君のリンゴは12個であることがわかります。

このように「和」と「差」からそれぞれの個数などを求める計算を<sup>わさざん</sup>和差算といいます。



## 例題と解説

### 例題 2

100円をA君、B君、C君の3人で分けました。A君はB君より20円多く、B君はC君より10円多かったそうです。それぞれ何円ずつもらいましたか。

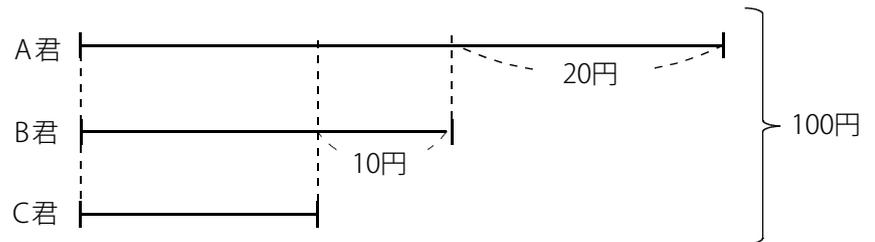
答え A 50円, B 30円, C 20円

#### [例題 2 の解説]

図で3人の持っているお金を表してみましょう。

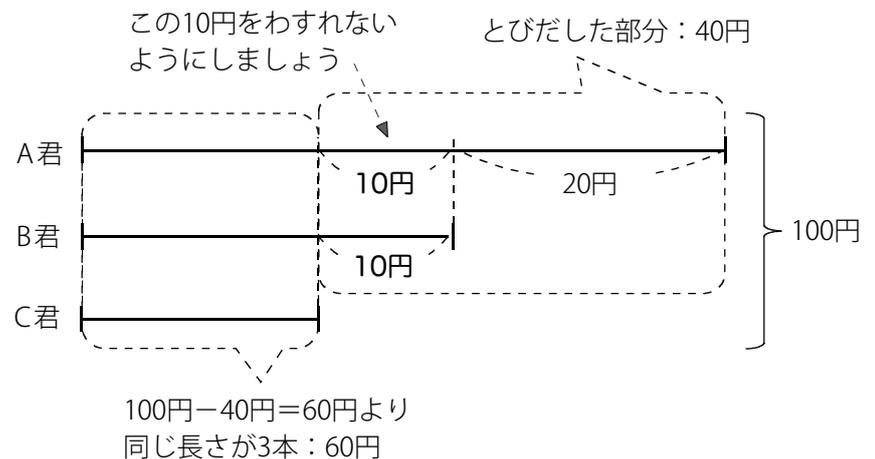
3人なので3本の線分図です。

C君がもっとも短くなります。



とびだした部分は  $10+10+20=40$ 円です。

30円ではありません。



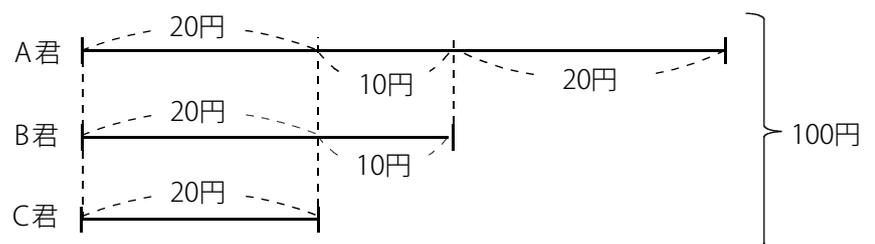
同じ長さが3本で60円となります。  $60 \div 3 = 20$ 円

よって

A君は  $20+10+20=50$ 円

B君は  $20+10=30$ 円

C君は 20円





## ポイントまとめ

- 和差算は線分図を書いてとびだした部分をひいて同じ長さにそろえてから割り算します。